

科目名	論理国語	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 特進	
目標	実社会に必要な国語の知識を身に付け、論理的・創造的に思考する力を養い、適切かつ効果的に表現し伝え合う力を高めるとともに、言語感覚を磨き、進んで表現する姿勢や、読書に親しみ自己の向上、社会生活の充実を図る態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解している。	論理的かつ批判的に考える力を伸ばすと共に、創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
	A わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。
	B できる	実社会に必要な国語の知識や技能への関心を持つことが出来ている。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つ。	伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。
	C する	実社会に必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法		定期考査・小テスト・課題・レポート・授業時の観察	定期考査・小テスト・課題・レポートや小論文・授業時の観察	課題の提出状況・授業への取り組み姿勢・レポートや小論文作成時の取り組み姿勢

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 論理と出会う 2 具体と抽象 3 対比をとらえる
2 学期	4 主張をつかむ 5 論理的に書く―小論文① 6 統計資料を活用する
3 学期	7 比べて読む 8 レポートを書く

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編 論理国語』 副教材（教科書準拠ノート等） 教科担任作成資料 桐原書店『常用漢字ワイドアルファ』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習・ペア学習 個別の調べ学習

科目名	古典探究	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 特進	
目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。	「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	進んで本文と付属資料を関連付けて捉え、現代に通じる内容やテーマについて考察しようとしている。
	A わかる	・ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・ 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。	進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、学習課題に沿って、説話を正確に読み取ろうとしている。
	B できる	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	進んで各章段の構成や展開、内容を的確に捉え、学習課題に沿って作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。
	C する	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	進んで古典特有の読み方を確認し、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。
評価方法		観察、ワークシート、小テスト、定期テスト	観察、ワークシート、小テスト、定期テスト	観察、ワークシート、学習課題

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	(古文) 説話, 随筆 『宇治拾遺物語』『十訓抄』『徒然草』 (漢文) 故事と小話 『戦国策』『世説新語』『呂氏春秋』『五雜俎』
2 学期	(古文) 作り物語, 和歌 『竹取物語』『小倉百人一首』 (漢文) 史記, 十八史略
3 学期	(古文) 日記 『土佐日記』『更級日記』 (漢文) 唐詩, 寓話

何で学ぶか(教材)

「新編 古典探究」(東京書籍)
「新編 古典探究(準拠ワーク)」(東京書籍)
「体系古典文法」(数研出版)
「古文単語315」(桐原書店)
各種ワークシート

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習

科目名	世界史探究		授業時数	週 3 単位
			コース・学年	スポーツ科学コース（特進） 2 学年
目標	地球の誕生や人類の誕生を視野に入れつつ、古代文明の形成から現代に至る世界の歴史の展開を扱い、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みを基に、世界の歴史を大きく捉える。また、諸資料、地理的条件、日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界を考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	世界史探究で学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる 諸問題（政治・外交・経済等）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 人類の歴史と私たち 第2章 古代文明の特質 第3章 アジア諸地域の国家と社会 第4章 西アジアの帝国と古代ギリシア
2 学期	第5章 古代ローマ 第6章 ヨーロッパの形成とイスラーム教の誕生 第7章 結びつくユーラシアの諸地域 第8章 キリスト教ヨーロッパの成熟と交流（前半）
3 学期	第8章 キリスト教ヨーロッパの成熟と交流（後半） 第9章 交易の進展と東アジア・東南アジア 第10章 アジア諸地域の再編

何で学ぶか(教材)

山川出版社『詳説世界史』 啓隆社『新世界史要点ノート（応用編）』 （2023年度版） 啓隆社『世界史重要語句Check List』 （2023年度版） 浜島書店『詳説世界史図説』
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 課題 討議

科目名	日本史探究	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 特進	
目標	歴史的思考力を培うなかで、基礎的な知識を身に付け、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 日本史と地理的条件や世界史との関連性を理解でき、諸資料から情報を適切に調べまとめることができる	歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論することができる。	日本史の展開に関わる諸事象を主体的に探究し、多面的・多角的な考察や理解をすることができる。
	A わかる 日本史と各地域の歴史の関連性を理解することができる。	日本史の展開に関わる事象の意義や文化などを、比較、相互の関連性や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集することができる。
	B できる 日本史と世界史を関連づけながら理解することができる。	平和的で民主的な国家・社会を形成するうえで必要な自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 日本史を理解するために必要な語句を理解することができる。	日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	日本文化のあけぼの 古墳とヤマト政権 律令国家の形成 貴族政治と国風文化
2 学期	院政と武士の躍進 武家政権の成立 武家社会の成長
3 学期	近世の幕開け 幕藩体制の成立と展開 幕藩体制の動揺

何で学ぶか(教材)

『詳説日本史』（山川出版） 日本史のライブラリー（とうほう）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	生物基礎	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

どのような力を、 どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。実験、実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることとともに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法		定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験、観察、レポート等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき
2 学期	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境
3 学期	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と生態系 第5章 生態系とその保全

何で学ぶか(教材)

数研出版 改訂版 生物基礎(316)
数研出版 リードLightノート 生物基礎

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習
実験，実習
グループ活動

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目 標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	S 使える 実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	S 瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	S 問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	A 自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	A 客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる 基礎練習を正しくおこな い，競技に応じた技術を身に付けている。	B ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	B できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	C 健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	C 授業を受けるための準備ができている。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	保健	授業時数	週	1 単位	
		コース・学年	スポーツ科学	コース	2 学年
目標	生涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、日常生活における自らの課題を発見し、目標を立てて学ぶ力を身に付ける。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	社会生活における健康の保持増進に関わる事情から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	A わかる	各段階における健康の課題や我が国の健康・医療制度や機関の適切な活用の仕方がわかる。	用途に応じて、適切な施設や制度の選択ができる。	様々な健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	B できる	健康の保持増進には、個人的要素だけでなく、社会的要素が深くかかわっていることを理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	思春期と健康，性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康，避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学期	中高年期と健康，医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学期	大気汚染と健康，水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備，食品の安全を守る活動 働くことと健康，働く人の健康づくり

何で学ぶか(教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント クロムブック

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 調べ学習

科目名		書道Ⅰ	授業時数	週 1 単位	2 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目 標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図る。表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	漢字・仮名の書の古典の表現に基づく、基礎的な用筆・運筆の技能を身につけ表している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
	A わかる	漢字・仮名の書の古典の、書風と用筆・運筆の関係を理解している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想している。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもとうとしている。
	B できる	漢字と仮名の調和した表現の基礎的な技能を身につけ表している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化についてその価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもち、書のよさや美しさを理解しようとしている。
	C する	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について理解している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解している。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもとうとしている。
評価方法		提出作品 学習シート 考查	提出作品 学習シート	提出作品 学習シート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・ 漢字仮名交じりの書の学習Ⅰ ・ 漢字の書の学習(行書)「集王聖教序」 ・ 漢字の書の学習(行書)「蘭亭序」 ・ 漢字の書の学習(楷書)「風信帖」
2 学期	・ 漢字の書の学習(行書)「争坐位文稿」 ・ 漢字仮名交じりの書の学習Ⅱ ・ 期末考查
3 学期	・ 仮名の書の学習 ・ 漢字仮名交じりの書の学習Ⅲ

何で学ぶか(教材)

教育図書『書Ⅰ』 補助プリント 学習シート パワーポイント等の映像資料
--

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉授業(講義・実技) グループ学習(相互批評等) 鑑賞学習

科目名	美術 1	授業時数	週 1 単位
コース・学年	ドイツ科コース	2 学年	
目標	幅広い美術活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを旨とする。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	表現：自己のイメージを表現することができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝え、他者の見方を受け入れられ、さらに思考することができる。	全ての学習を通して積極的であり、美術表現を工夫することができる。
	A わかる	対象や事象を捉える造形的な視点と意図に応じて表現方法を創意工夫する関係を理解している。	表現：形、材質などの表現ができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝え、他者の見方を受け入れられる。	個人制作及びグループ学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	対象や事象を捉える造形的な視点の基礎的な表現技法を身につけて表している。	表現：構図を考え表現することができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝えられる。	表現・鑑賞の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	日常生活の美術の効用や美術の歴史、文化について理解することができる。	表現：関心を持ち表現することに喜びを感じる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持つことができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		提出作品 ワークシート 考査	授業 提出作品 ワークシート 考査	授業 ワークシート 考査

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学習内容
1 学期	オリエンテーション 造形表現その一（彫刻） 造形表現その二（版画） 共同作品 美術作品鑑賞その一
2 学期	絵具の制作と表現（絵画） 造形表現その三（デザイン/彫刻） 期末考査 美術作品鑑賞その二
3 学期	自己と表現の考察 造形表現その四（絵画/彫刻/etc.） 美術作品鑑賞その三

何で学ぶか(教材)

高校生の美術1（日本文教出版）／ワークシート／パワーポイントなどの映像資料 副教材：スケッチブック、鉛筆、絵具（中学、高校1年次から使用しているものでも可）／各の題材に必要な材料は学期ごとに購入します。

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉授業（講義・実技） グループ学習（作品制作・鑑賞など） 鑑賞学習 ※chromebookを用いたICT授業も行いますので必要に応じて持参してください。

科目名		音楽Ⅰ	授業時数	週 1 単位	2 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目標	・幅広い音楽活動を通して音楽を愛好する心情を育むと共に、音楽の歴史と大作曲家の名曲に触れることで音楽文化についての理解を深める。 ・音楽・スポーツ共通の重要事項であるリズム感を身につける。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S 使える ・読譜能力を身につけ歌唱・リコーダーの演奏ができる。 ・音楽の歴史的背景を理解し鑑賞することができる。	楽曲のイメージと自己のイメージを結び付け、表現するための技能を身につけることができる。	・グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。 ・積極的にいろいろな音楽を鑑賞することができる。
価	A わかる ・ボディパーカッションにより体を使ってリズム感を身につけることができる。 ・音楽の歴史的背景に関心を持ち鑑賞することができる。	・アーティケレーションや強弱をつけた表現ができる。 ・時代による音楽のスタイルの違いを感じ取ることができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。 ・積極的に音楽を鑑賞することができる。
基	B できる ・腹式呼吸や正確なリコーダーの運指で、合唱・リコーダーアンサンブルができる。 ・音楽の歴史に関心を持つことができる。	・♯や♭のあるメロディを流れるようにスムーズに演奏することができる。 ・時代による音楽の変化を感じ取りながら鑑賞することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
準	C する ・合唱とリコーダーアンサンブルに意欲的に取り組むことができる。 ・音楽の歴史と鑑賞を学ぶことの意義を理解できる。	音楽に関心を持ち、合唱やリコーダーアンサンブルに喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ルネサンス・バロック時代の音楽 アルトリコーダー「グリーンスリーブス」 ボディパーカッション 実技テスト
2 学期	古典派・ロマン派の音楽 歌唱・リコーダー「花」 ボディパーカッション 期末テスト 実技テスト
3 学期	近代の音楽 歌唱「Memory」 アルトリコーダー「モルダウ」 実技テスト

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAⅠ」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名	英語コミュニケーションⅡ	授業時数	週 4 単位
		コース・学年	特進 コース 2 学年
目標	英語を読むこと、聞くこと、話すこと、書くことの4技能における言語活動、及びこれらを統合した言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	社会的な話題に関するまとまった記事やレポート、資料等を読んだり聞いたりして、情報を整理しながら概要や要点を理解することができる。	関心のある話題や社会的な問題について、A2レベルの語句や表現を用いて、自分の意見やその理由を論理的に書いたり述べたりすることができる。	英語を活用し、自ら様々なことを英語を用いて表現しようとすることができる。また、自ら必要な学習に取り組むことができる。
基	身近な話題に関する短い記事やレポート、メールや広告などの資料を読んだり聞いたりして、その概要を理解することができる。	日常的な話題や関心のある話題について、A1レベルの語句や表現を用いて、自分の意見やその理由を簡潔に書いたり述べたりすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かうことができる。また、課題に自ら工夫しながら取り組むことができる。
準	平易な英語で書かれたごく短い英文を読んだり聞いたりして、イラストや写真も参考にしながらその概要を理解することができる。	日常的な話題について、基本的な語句や表現を用いて、自分の考えを書いたり述べたりすることができる。	疑問点を人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。また、課題にきちんと取り組むことができる。
評価方法	小テスト・定期考査など	定期考査・パフォーマンステストなど	授業中の取り組み・課題提出など

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson 1 : Swedish Girl's Discoveries in Japan Lesson 2 : A Message from Emperor Penguins Lesson 3 : Tokyo's Seven-minute Miracle
2 学期	Lesson 4 : Seeds for the Future Lesson 5 : Gaudi and His Messenger Lesson 6 : Edo: A Sustainable Society Lesson 7 : Biodiesel Adventure : From Global to Glocal
3 学期	Lesson 8 : Our Future with AI OL 1 : Language Change over Time OL 2 : Letters from a Battlefield

何で学ぶか(教材)

LANDMARK Fit English Communication II
必携英単語LEAP

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習 ペア学習・グループ学習 ICTを活用した教材

科目名	論理・表現 I	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポ科 クラス 特進クラス	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準 S 使える A わかる B できる C する	パラグラフの構成に基づいて情報や考えなどをまとめ、文章を書くことができる。	聞き手や目的に応じて、紹介するトピックを決め、原稿書いたり発表したりすることができる。	積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
	読み手や目的に応じて、つなぎの言葉を使って文章を書くことができる。	自分のことや与えられた課題について書いたり即興で話したりすることができる。	間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。
	モデル会話を英語らしい発音で発話することができる。	学んだ文法を使って、文章を簡潔に書くことができる。	モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。
	学習した文法を理解し、知識として定着している。	例文を英語らしい発音で発話することができる。	授業を受けるための準備ができている。
評価方法	小テスト・定期考査など	定期考査・パフォーマンステストなど	授業中の取り組み・課題提出など

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	L1 Let's talk about Ourselves L2 School Life L3 The arts
2 学期	L4 Food and Culture L5 Welcome to Our Town L6 Traveling Abroad L7 Sports
3 学期	L8 Everyday Technology L9 Take Care L10 SDGs－Take Action!

何で学ぶか(教材)

三省堂 MY WAY Logic and Expression I

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習 ペア学習・グループ学習 ICTを活用した教材

科目名	実践数学	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 特進	
目標	事象と数学のかかわりや，社会的有用性についての認識を深めるとともに，課題を設定し，解決までのプロセスを多角的に考察し，協働して論理的に解決しようとする態度を育てる			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 事象を数学的に捉え，適切な数学的处理ができる。	事象を多面的に捉え，それを数学的・論理的に表すことができる。	自ら課題を設定し，既習内容を活用・応用することができる。
	A わかる 与えられた課題の解決方法を自ら導くことができる。	事象を多面的に捉え，協働し数学的論理を考察することができる。	自ら課題を設定し，既習内容を反復演習することで定着を図ることができる。
	B できる 与えられた課題について，指示した方法で解決することができる。	事象を理解するために，協働し考察することができる。	与えられた課題に取り組み，理解をするために自ら質問することができる。
	C する 基本的な事象について考え方や公式を選択し，回答することができる。	解いた内容を言語化し，発表することができる。	指示した内容を期限内に取り組み提出することができる。
評価方法	授業での演習 定期考査等の試験 記述式問題	グループ学習 発表 定期考査等の試験 記述式の問題	授業での演習 提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	3TRIALのTRIAL B問題 外部模試過去問
2 学期	3TRIALのTRIAL B問題 外部模試過去問
3 学期	3TRIALのTRIAL B問題 外部模試過去問

何で学ぶか(教材)

数研出版 新編数学 I
数研出版 新編数学A
数研出版 3TRIAL数学 I + A

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習
スタディサプリ

科目名	数学Ⅱ	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 特進	
目標	図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生活から課題を発見し，事象を数学化することができる。	事象を論理的，かつ統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し，問題解決の過程を振り返り考察し，自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	複合問題の構成を的確に捉え，適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	課題に対して適切な公式を選択し，解くことができる。	適切な用語・記号を使い，人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な式を計算したり，公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業 定期考査	授業 定期考査 提出物	授業 提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式
2 学期	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法
3 学期	第6章 微分法と積分法

何で学ぶか(教材)

数研出版『新編 数学Ⅱ』 数研出版『3TRIAL数学Ⅱ+B』 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材(chromebook)
--

科目名	スポーツⅥ	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進

目標
 初動負荷マシンを利用したウエイトトレーニングの実践を通して、柔軟かつ弾力性のある筋肉を獲得できるようにする。また、身体の調子を整え、怪我の予防を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に故障しない身体作りができる能力を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える	初動負荷理論を理解し、それに基づいた動作・リズムをマシンで表現することができる。	柔軟な身体を獲得し、さらにその過程を論理的に簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	初動負荷トレーニングを活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとする事ができる。
評価 A わかる	関節可動域が十分に獲得されたマシン動作を身に付け、どの筋肉・関節と連動しているかを理解している。	自分の身体の状況を理解し、マシンの効果・部位を解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基準 B できる	弛緩→伸張→短縮のリズムが崩れず、応用したポジションでのマシン動作を身に付けている。	初動負荷理論を理解し、用語や単語を適切に用いることができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
基準 C する	基本的なマシンの機能を理解し、動作を身に付けている。	柔軟な身体を求め、機能解剖や身体のしくみなどを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	初動負荷理論 全身の筋肉・関節 マシン動作・リズム・ポジション
2 学期	初動負荷理論 各筋肉の機能・起始・停止 マシン動作・リズム・ポジション
3 学期	初動負荷理論 各関節の機能 マシン動作・リズム・ポジション

何で学ぶか(教材)

初動負荷マシン 機能解剖学プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・グループトレーニング ・映像学習（動画）

科目名		選択スポーツ	授業時数	週 2 単位	全 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目 標	各運動の合理的な実践を通じて、運動能力を高めるようにする。また、身体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、障害を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。				

どのような力を、 どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術を用いて戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	各競技での経験を活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分のポジションを理解し、より大きな力を発揮するために、集団でプレーすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	専門体力を有し、競技に応じた技術を身に付けている。	専門競技に必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業	授業	授業

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	基礎練習
2 学期	集団練習・ケース練習
3 学期	実践練習

何で学ぶか(教材)

各競技に必要なもの

どのように学ぶか(授業方法など)

- 講義 - ペア学習・グループ学習 - 競技毎の練習
